

2025年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者入試C日程 試験問題

刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

＜解答上の注意＞

1. この問題冊子は、表紙を含め3枚である。
2. 問題には、問題1（刑法）と問題2（刑事訴訟法）がある。配点は、問題1が60点、問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、2枚が配付されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。

整理番号	受験番号	点

岡山大学大学院法務研究科試験用紙		
(枚の内 枚目)		
試験科目 <u>刑事法系</u>		第 問

5. 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので、折り曲げや書込みをしないこと。なお、書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後、指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題１】

次の各〔設問〕に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題１」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、２問とも解答すること。）。

〔設問１〕（配点３０点）

甲（５１歳、男性）は、某日午後７時３０分ころ、自転車にまたがったまま、歩道上に設置されたごみ集積所にごみを捨てていたところ、帰宅途中に徒歩で通り掛かったＸ（４１歳、男性）が、その姿を不審と感じて、声を掛けた。その後、両名は言い争いとなり、Ｘは、いきなり甲の左頬を手拳で１回殴打し、直後に走って立ち去った。

甲は、「待て。」と言いながら、自転車でＸを追い掛け、上記殴打現場から約２６．５ｍ先を左折して約６０ｍ進んだ歩道上でＸに追い付き、「待てと言っているだろ。」と怒鳴った。Ｘが振り返ると、甲は、自転車を降りて、「いきなり殴りやがって。倍にして返してやる。」と言って、拳を振り上げ、Ｘを殴打しようと直進してきた。

Ｘは、護身用に携帯していた特殊警棒を衣服から取り出し、甲の殴打から身を守ろうとして、甲に対し、その顔面や防御しようとした左手を数回殴打する暴行を加え、よって、甲に加療約３週間を要する顔面挫創、左手小指中節骨骨折の傷害を負わせた。

以上の事実について、Ｘの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く。なお、Ｘには殺意は認められないものとする。）。

〔設問２〕（配点３０点）

Ｙは、強盗事件を犯し、警察から指名手配を受け、逃走していたところ、Ｚに対し「自分は強盗事件を起こして警察に追われている。匿ってくれ。」と告げて自己を匿うよう依頼した。Ｚは、これに応じて、自宅でＹを匿った。

Ｙ及びＺの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く。）。

《問題１ 以上》

《次頁に続く》

【問題2】

次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事例】

1 警察官Pらは、Vに包丁で切り付ける暴行を加え、Vから財布を奪ったとの疑いのある被疑者甲について捜査していた。捜査により、甲の嫌疑が高まったので、Pらは、強盗致傷の被疑事実で甲に対する通常逮捕状の発付を請求し、これが発付された。

2 ある日の午前8時頃、Pらは同逮捕状により甲を逮捕するため、甲方へ向かった。

Pが甲方の呼び鈴を押すと、甲が応対に出た。Pが甲に対して、「Vに対する強盗致傷の被疑事実で、あなたに逮捕状が出ています。あなたを逮捕しに来ました。」と来意を告げると、甲は「近所の目があるので、とりあえず家の中に入ってほしい。」と述べたので、Pらは甲方内へと入った。

甲方はマンションの一室であり、間取りは3LDKであって、北側の玄関から入ると、部屋の奥の南に向けて廊下があり、玄関の左右横には、廊下の東側に洋室、西側に和室があり、廊下の突き当りにはキッチンと一体となった居間があり、その居間の西側には、和室がある。また、Pらが甲方内に入った時には、甲の他に甲の妻の乙が在宅していた。

3 同日午前8時10分、Pは、甲方内の居間にいる甲に対して同逮捕状を示し、被疑事実を告げてその場で甲を逮捕した。

このとき、乙は、洋室にいた（なお、この洋室と居間との間は壁で仕切られており、直接は行き来できず、洋室から居間に移動するには、一旦廊下を通っていく必要がある。）。

Pらは、甲を逮捕した直後から、搜索差押許可状を得ないまま、甲方の搜索を開始した。

4 同日午前8時12分頃、Pは、乙が所在する洋室に入り、「この部屋も搜索します。」と乙に告げて、同洋室の搜索を開始した。乙は「こんなところまで搜索するのか。」とあって抗議したが、Pは聞き入れなかった。同日午前8時13分、Pは、同洋室のクローゼットの中から被害品であるVの財布と刃先に血痕の付着した包丁を発見したので、これらを差し押さえた。

〔設問〕（配点40点）

下線部の捜査の適法性について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい。なお、甲の逮捕経緯には何ら違法な点はないものとする。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題趣旨】

【問題 1】 刑法

〔設問 1〕 自招侵害と正当防衛の成否が問題となる事案を素材として、刑法総論の体系的理解と事案処理能力を問うものである。

〔設問 2〕 犯人隠匿罪と共犯の成否が問題となる事案を素材として、刑法各論の基本的な理解と事案処理能力を問うものである。

【問題 2】 刑事訴訟法

本問は、令状によらない捜索差押えの適法性について、刑事訴訟法 220 条の解釈を示しながら論じ、事案を解決することができるかを問うものである。